



# 地域交流活動かわら版

2016/10/5

地域交流課

vol.19



## 発達障がい児の余暇活動支援「きらめきハッピーキャンプ」を開催！

### 大きな成長の夏となりました！ 保健学部 太田ひろみ教授

平成 28 年 8 月 12 日～13 日に新潟県魚沼市銀山平にて、一般参加者 20 名、保健学部、外国語学部の教員 9 名と学生 19 名が参加して「きらめきハッピーキャンプ」を行いました。カヌー、イワナのつかみどり、星空観察、餅つきなどの体験型プログラムと、ものづくりなど学生が企画した参加型プログラムを実施しました。子どもたちは自然の中で様々な体験をすることにより、達成感、自己効力感、自尊心・自己肯定感を育むことができました。また、学生は発達障がいに対する理解を深め、将来専門職として働く上で必要な知識と振る舞いを形成することができました。楽しみながら充実した時間を共有することで、それぞれが大きく成長できた夏になりました。



カヌー体験を行いました！



夏の楽しい思い出が残りました！



## 青梅市・羽村市共同事業「青梅・羽村ピースメッセンジャー」に 本学学生 3 名がリーダーとして参加しました！



羽村市と青梅市は、中学生を「青梅・羽村ピースメッセンジャー」として、広島へ派遣し、戦争の悲惨さと平和の大切さを心で感じ取る「青梅・羽村ピースメッセンジャー」事業を行っています。原爆が投下された広島で戦争体験者と交流し、平和記念資料館や慰霊碑等を実際に見学、平和記念式典に参列することで平和の大切さを体験します。今回、保健学部 3 年 望月麻衣さん、高橋萌菜実さん、外国語学部 4 年 鈴木啓太さんの 3 名がピースツアーに参加し、中学生のリーダーとして共同事業の支援を行いました。広島訪問では、被爆者の方の話を聞き、原爆ドームや原爆の子の像などを見学して平和記念式典に参加しました。



平和記念式典へ参加



原爆ドームの見学



「これらを経験し 2 日目のピースワークに臨むことで、より原爆や平和に対する想いが強くなりました。最終日には、各々がその思いをはせながら平和記念式典に参加しました。」(望月さん)



「今回の経験を通して、中学生だけでなく私たち大学生も、これからの平和のためにどう行動していくべきなのか？自分なりの答えを見つける事ができました。」(高橋さん)



原爆の子の像の見学

# 三鷹国際交流協会主催 坂本ロビン先生の講演会が開催されました！

第76回 国際理解講座「踏み出そう第1歩～世界とつながるコミュニケーション～」

平成28年8月27日(土)に三鷹国際交流センターに於いて開催しました。

国際理解講座は、市民の多文化理解の促進に向け、世界の歴史や文化などをテーマに開催している三鷹国際交流協会(MISHOP)の講演会です。日本はこれまで自国の文化を大切



にしながら、様々な文化を取り入れそれを基に独自の文化を創り出してきましたが、昨今の世界の変動に伴い、日本がどのようにグローバル化していくかを考える時期にきているとも言われています。今回の講演会では英語力も大切ですが、それよりも更に大切である異文化コミュニケーション能力についての講義を行いました。

**NEW**

## 本学の学生が羽村日本語学習会で 授業を行っています！

平成28年8月から羽村福祉センターにおいて、今年も日本語教師養成プログラムを受講した、外国語学部3年 石井愛さんと佐田ジェシカまゆみさんが日本語初級クラスの授業を行っています。社会人対象の講座で、日本語を初歩から教えています。



授業を行う石井さん

9月5日は『時間』をテーマに授業を行いました。明るく真面目な授業は、受講生からも親しみを持たれています。授業は11月まで定期的に行われます。

## 生きがいきりコーディネーター養成講座 の意見交換会を開催！

前期の授業終了を受けて、履修生と本学の間で受講の感想や要望を自由に発言して頂く、意見交換会が行われました。履修生からは「図書館が利用できるようになって良かった」「学生時代より学びたい気持ちが強くなった」「他者へも生きがいを提供できるようになりたい」「若い世代に学びの大切さを伝えていきたい」などの感想が寄せられました。講座の修了要件を満たせば、文科省の学校教育法に基づくプログラム修了証が授与されます。



意見交換会の様子

- ◎1科目15回
- ◎年間120時間以上受講
- ◎現在17名が受講中

## 学生ボランティアグループ 『いのちのおはなし会』が、 東京新聞に掲載されました！

平成28年8月22日付の東京新聞に、本学の学生ボランティアグループ「いのちのおはなし会」が掲載されました。



東京新聞に掲載

2002年に保健学部のゼミから誕生した同グループは、現在15名のメンバーで取り組んでいます。

代表の保健学部3年 石田仁美さんは「これからも地道に活動を続けていきたい」と抱負を語っています。